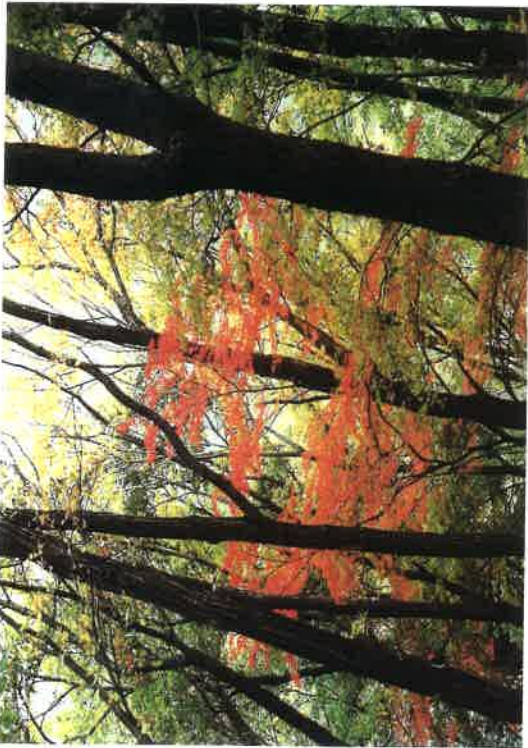


菊花山・御前山

■日帰り
■歩行時間：3時間25分



登山道の各所にカエデの紅葉が見られる

登山適期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花期				シエンラン	ヤマツツジ	ヤマツツジ	ムラサキキノキ	ヤマユリ	ヤマユリ	ヤマユリ	ヤマユリ	ヤマユリ
				新緑							紅葉	紅葉

小尾根を突き上げるように進む。いつの間にか植林帯から雑木林が続く主稜に飛び出す。春ならヤマツツジ、晩秋ならカエデの紅葉が逆光に照り映える尾根となり快適だ。ひとしきり登ると、ザレた岩場が現れ狭い菊花山頂に立つことができる。四等三角点の独立峰のテノコツからは、南の鹿留山の上に富士山が、北には南大菩薩方面の山並みを指呼することが可能だ。

●菊花山から御前山

さて、せっかく登ったのにもったいないといわず、露岩をぬって急下降し、沢井峠の鞍部から再び登り返していく。



秋に見つけたヤマツツジの花

檜の原木を見て、アカマツが混在するようになると反射板は近い。反射板のあるところは、先ほどの菊花山を振り仰いだり、東に厄王山の岩場を、西に三ツ峠山や滝子山方面の山々を眺めたりする適地。

ここからは急坂の明るい尾根をつめていく。しばらくで沢井ノ頭分岐に出る。右に登ると沢井ノ頭だが、左にトラバースして東に延びる主稜線に入る。小さなアップダウンを繰り返す尾根道だが、ザレた八五郎岩は右下を巻き、注意して突破。前方関近に御前山の南壁が松と梢を配して見える。



菊花山嶺の四等三角点標石

中央線の下り列車が大月に近づくと、右手眼前に岩殿城址の岩山を眺めて、左手車窓はと視点を変えると、すぐそばに三角形の突峰が立ちはだかつて見える。それが菊花山である。標高643・7mの低山だが、周囲の雑木の紅葉が映え、眺望もみごとだ。

このめずらしい山名は、山頂付近に産出する菊花石（ベンダントなどに利用される菊紋のある石）に由来する。また、大月市街のすぐ南にあるため市街地に日が当たらず、貧乏山とかバカ山と呼ばれ、反対側の沢井では、北にこの山を背負っているので冬暖かく、徳山、林宝山と呼ばれていたという（山村正光氏の情報）。

渋好みの踏跡コースから、富士山的好展望台である御前山へ抜け、神楽山に寄り道して下山する小さな山踏みであり、春の新緑はもちろん、晩秋から初冬の紅葉や落ち葉が降り積もる頃の入山も捨てがたい。



秋色に映られる御前山の岩峰

●大月駅から菊花山

大月駅の南側に伸びた直線道路を進むと、ちょうど正面に立ちはだかるような釣鐘状の山を仰ぐ。この山こそ菊花山であり、めざして国道20号を横切っていく。ふもと近くで右に折れ、水路沿いに少しいくと無辺寺境内に入る。

奥ノ院の掲額（菊花山）に拝礼して登りが始まる。すぐ忠魂碑と送電線鉄塔をすぎることが、次第に急登となり高度を上げていく。右に回り込むところでは藪っぽい踏跡もあるが、道形がしっかりしているので心配ない。

山腹を南側に回り込んだら

御前山の岩峰からは、杉の樹に似た「ねずみさし」越しに、秀麗な富士山を思う存分眺めるとよい。ただし、滑落の危険があるので足元に注意したい。

下山は、直下の巻き道に戻り、厄王山への道と分かれて右に行く。急下降はすぐ終わり、気持ちのよい尾根下りとなる。途中、右に神楽山に寄り道してもよい。後はゆるい下降の後、車道に出ると、猿橋駅舎が見えてくる。

（藤本一美）



データ

- コースタイム/JR中央本線大月駅(10分) 無辺寺(45分) 菊花山(35分) 反射板(30分) 御前山(25分) 神楽山(1時間) JR中央本線猿橋駅
- 交通/復路=JR中央本線大月駅から徒歩
- 問合せ先/照会=大月市役所 ☎0554-22-2111
- 2・5万地形図/大月
- 山行アドバイス/菊花山とその周辺は倒木や藪っぽいところがあり、踏跡程度の登山道もあるので、家族向きではない。地形図で現在地を読みながらルートを判断する練習や、静かな山歩きを求めたり、雑木の森林浴にひたったり、新緑・紅葉の彩りのなかにとどまってみたい人向き。山慣れた人向きの人里の低山なので、安易な気持ちで大勢で入山しないほしい。水場は主稜線にはないの、最寄り駅で汲んでおきたい。厄王山や九鬼山と組み合わせると、いろいろなコース設定が可能となる。